

大中型まき網漁業について

一般社団法人 全国まき網漁業協会

<http://zenmaki.or.jp>



●概要

大中型まき網漁業は、わが国周辺水域から遠洋水域において、年間約90～100万トン、約1,000億円（わが国海面漁業の漁獲量の約3割、水揚金額の約1割）を生産し、わが国漁業生産にとって最も重要な漁業のひとつとなっています。

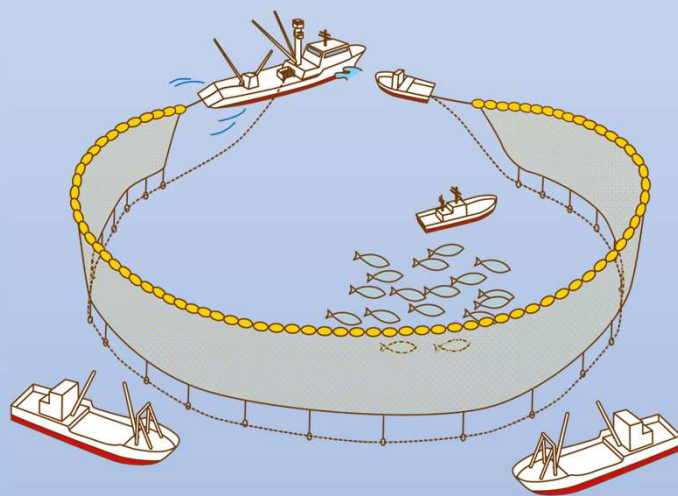
漁獲の主対象は、アジ、サバ、イワシ、カツオ、マグロなど浮魚類で、これらの水産資源を持続的かつ有効に活用し、将来にわたって国民の皆様へ安全・安心な水産物を安定してお届けすることができるよう、漁獲量の上限を定めるなど、適切な資源管理のもとで操業を行っております。



●操業

操業は、漁網を積んだ網船と魚群を探す、あるいは集める探索船（灯船）、漁獲物を運搬する運搬船で構成される船団で行います。魚群探知機などを使って魚群を発見し、魚群を包囲するように漁網を投入して、漁網の下方を絞り漁獲します。漁獲した魚は、運搬船に取り込み、漁港に運びます。

労働生産性の高い漁法ですが、複数漁船を使用する船団操業であるため、経費および多くの乗組員が必要です。安定した漁業経営の実現に向け、船団規模の縮小による省コスト化や省人省力化の取組みとともに、燃油消費量の削減や漁具のリサイクルなどSDGsへの的確な対応を進めています。



図提供：水産研究・教育機構

●漁獲物の流通販売



漁獲物は、全国の主要漁港に水揚げされています。水揚げされた漁獲物は、市場、冷凍・冷蔵、水産加工、運搬、製氷、小売りなどの幅広い産業を支え、地域経済の維持発展に貢献しています。

漁獲物の用途は、生鮮、冷凍、加工などで、各地においてブランド化などが進展しています。今後、資源管理により定められた漁獲量の中で安定した収益性を確保するには、漁獲物の付加価値向上が必要で、加工流通業者との連携による需要にマッチした生産への取組みなどが重要となっています。